

報道関係者各位
2026 年 8 月 3 日
株式会社サンプラテック

iPS 細胞対応の国産 TPE チューブを 8 月 3 日発売

サンプラテック、再生医療市場での安定調達・製造支援へ向けた第一歩へ

株式会社サンプラテック（本社：大阪府大阪市、代表取締役：加藤 学司）は、再生医療向けの細胞培養・ライブ輸送ブランド「iP-TEC®」の新製品として、三菱ケミカル株式会社の医療用熱可塑性エラストマー「Zelas™シリーズ」を採用した「iP-TEC® 細胞培養用 TPE チューブ」を、2026 年 8 月 3 日より販売開始します。

細胞培養時の送液に適した 3 サイズについて、それぞれ滅菌済品と未滅菌品を用意し、合計 6 品番を展開。再生医療等製品の製造現場で求められる閉鎖系細胞培養工程の構築と、国内での細胞培養用チューブの安定調達を支援します。



“研究”から“量産”へ。再生医療の現場で高まる消耗部材の課題

2026 年 3 月 6 日、日本では iPS 細胞を用いた再生医療等製品 2 品目が、世界で初めて条件及び期限付きの製造販売承認を受けました。それに伴い、再生医療を支える周辺産業への期待も高まっており、装置や消耗部材を含めた「製造を支える基盤づくり」の整備が進められています。

そうした細胞の製造現場で欠かせないのが、培地の送液や薬液の充填、培養液のサンプリングに使用されるチューブです。国内の細胞培養現場で使われるチューブの多くは、海外製品への依存度が高く、納期、価格、安定供給のほか、国内の装置に合わせた仕様変更が導入時の課題となる場合があります。

サンプラテックは、国内での製造・品質管理・供給体制を整えることで、再生医療の産業化を足元から支える消耗部材の選択肢を提供します。



iP-TEC® 細胞培養用 TPE チューブ

「iP-TEC® 細胞培養用 TPE チューブ」5 つの特長

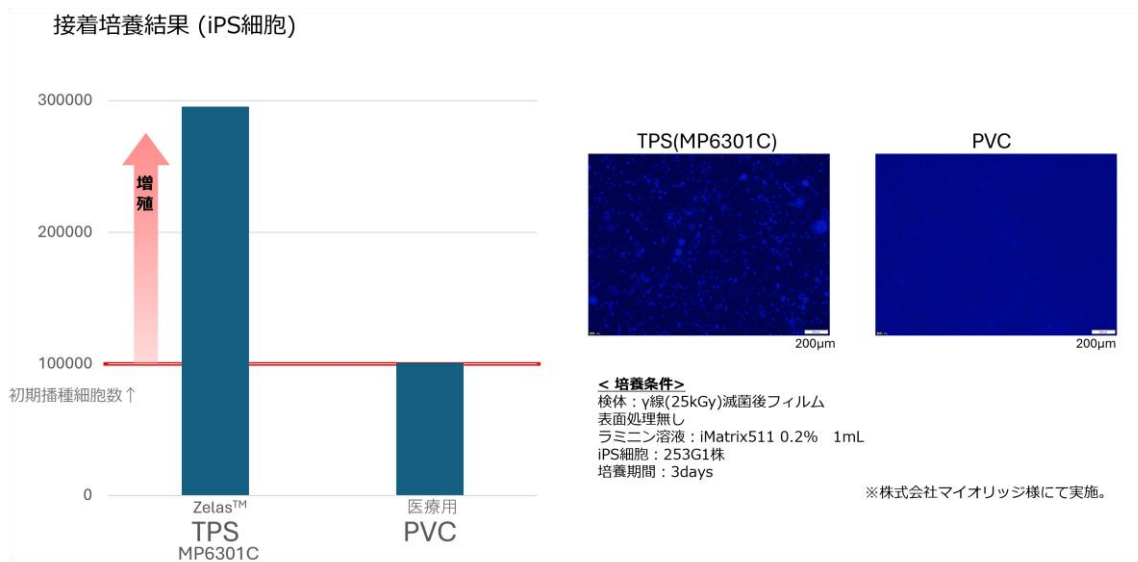
1. 国内製造により、輸入頼みの調達に代わる選択肢を提供

サンプラテックが国内で製造・供給することで、輸入品に依存した調達リスクの低減を図ります。標準品の販売に加え、培養装置、ポンプ、バッグ、コネクタなどに合わせたチューブの長さ、端末形状、部品構成のカスタマイズにも対応します。

2. DEHP フリーの TPE 素材を採用

本製品には、三菱ケミカル株式会社の医療用熱可塑性エラストマー「Zelas™ シリーズ」を採用しています。同社が、iPS 細胞を用いて実施した接着培養試験では、PVC（ポリ塩化ビニル）素材と比較して良好な細胞増殖が確認されています。

また、軟質 PVC で溶出リスクが指摘される可塑剤 DEHP を含まず、素材由来の細胞や培養液への影響に配慮しています。



三菱ケミカル株式会社が実施した接着培養試験結果

3. 3 サイズ、滅菌済・未滅菌の計 6 品番を展開

細胞培養時の送液に適した細径の 3 サイズを標準化し、それぞれに滅菌済品・未滅菌品を用意しました。研究段階での評価から製造工程への組み込みまで、使用環境に合わせて選択できます。

4. γ 線滅菌とオートクレーブ滅菌に対応

採用素材は γ 線滅菌 (25 kGy) とオートクレーブ滅菌のいずれにも対応しています。標準品に加え、培養バッグ、コネクタ、容器などと組み合わせたアセンブリ製品についても、使用条件や仕様に応じて相談を受け付けます。

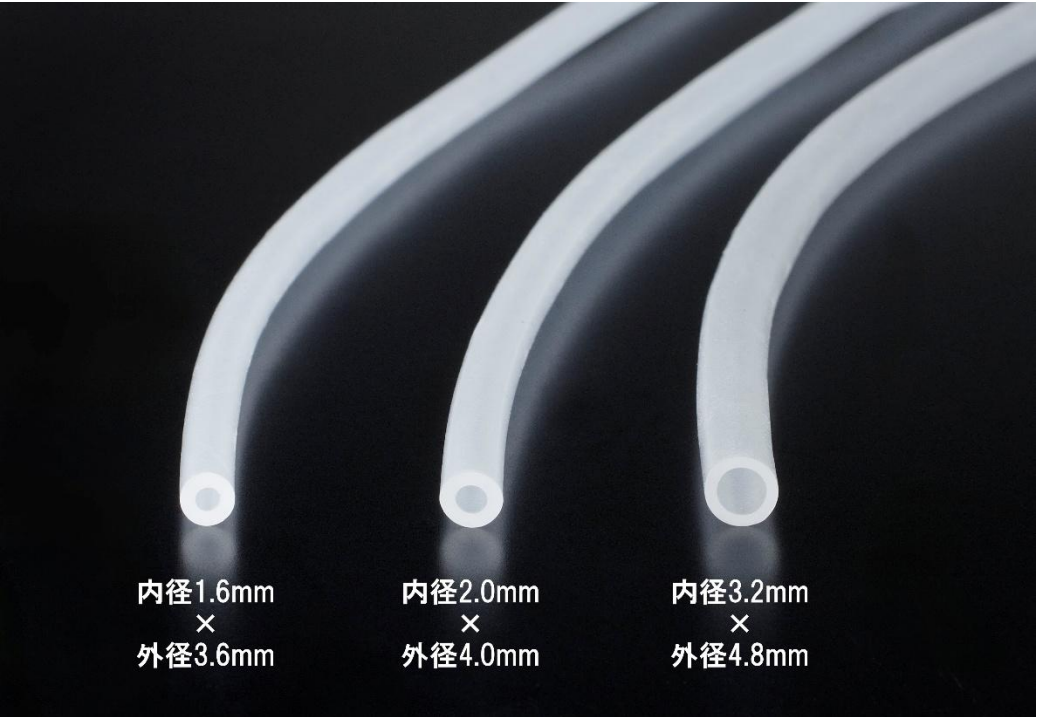
5. チューブの接続・切断を閉鎖状態で行う工程に対応

熱溶着式の無菌チューブ接合機や超音波式チューブシーラー、どちらにも対応しています。チューブを開放せずに接続・切断することで、外部環境との接触を抑えた細胞培養工程の構築を支援します。



超音波シーラー

製品ラインアップ

			
内径1.6mm × 外径3.6mm	内径2.0mm × 外径4.0mm	内径3.2mm × 外径4.8mm	
チューブサイズ	未滅菌品	滅菌済品	主な想定用途
内径 1.6 mm × 外径 3.6 mm	○	○	少量送液、サンプリング
内径 2.0 mm × 外径 4.0 mm	○	○	培地・薬液の移送
内径 3.2 mm × 外径 4.8 mm	○	○	流量を要する送液工程

※いずれも 1 巻 15m

チューブ単体ではなく、細胞培養システム全体を提案

サンプラテックが展開する「iP-TEC®」は、再生医療分野における細胞培養・細胞輸送用の容器およびデバイスを手がけるブランドです。細胞輸送容器、閉鎖環境細胞培養、灌流培養デバイス、オーダーメイド製品の開発を通じて、細胞の培養から輸送までを支える製品・技術を提供しています。

今回発売する TPE チューブは、単体の消耗部材としてだけでなく、培養バッグやコネクタ、ポンプ、細胞輸送容器などと組み合わせた閉鎖系システムの構成部材として提案します。

今後は、ユーザーごとの培養工程や装置仕様に合わせたアセンブリ製品の開発を進め、培養から輸送まで、一貫して支える製品群の拡充を目指します。



チューブの仕様例

開発担当者コメント

株式会社サンプラテック 企画開発本部 商品開発部長 土井猛司

再生医療が今、正に産業化しようというタイミングで、細胞培養専用チューブをリリース出来ることを嬉しく思います。再生医療の発展によって、様々な病気、症状にお困りの患者様の手助けとなる製品、研究に役立つプロダクトの開発をこれからも進めて参ります。

製品概要

製品名	iP-TEC® 細胞培養用 TPE チューブ
販売開始日	2026 年 8 月 3 日 (月)
製品構成	3 サイズ、滅菌済・未滅菌の計 6 品番
販売単位	各 1 巻 15 m
サイズ	内径 1.6 mm×外径 3.6 mm 内径 2.0 mm×外径 4.0 mm 内径 3.2 mm×外径 4.8 mm
採用材料	三菱ケミカル株式会社「Zelas™ シリーズ」
主な用途	細胞培養時の培地・薬液移送、サンプリング、閉鎖系培養回路の構築
価格 (税抜)	未滅菌品：10,000 円、滅菌済品：12,000 円
販売地域	日本国内
製品 URL	https://www.sanplatec.co.jp/product.php?id=1751

用語解説

TPE（熱可塑性エラストマー）：ゴムのような柔軟性を持ちながら、熱を加えることで成形加工できる樹脂材料。

閉鎖系細胞培養：培養容器と送液用のチューブやコネクタを一体化した完全密閉型のモジュールを用い、容器を外部環境に開放することなく、培地交換や液体移送を行う培養方式。

参考リンク

- 三菱ケミカルグループニュースリリース／サンプラテック社の細胞培養チューブに医療用熱可塑性エラストマー「Zelas™ TPS」が採用

https://www.mcgc.com/news_release/02616.html

- 三菱ケミカル株式会社 記事「細胞培養用チューブ選定ガイドー再生医療の未来を支える材料選びのポイント」

<https://ppd-japan.mcgc.com/blog/cell-culture-tube>

株式会社サンプラテックについて

「プラスチックとテクノロジーの融合」を基本理念に、自社のオリジナルブランドを中心としたプラスチック製理化学機器・器具の製造販売を行うメーカーです。研究室から製造現場、工場などで使用されるボトルから、オーダーメイドのプラスチック製品の製造、細胞培養容器やアイデア商品の開発まで、幅広い分野で活用いただいています。

<ブランド>

- ・細胞培養、ライブ輸送の容器&デバイスを取り扱う「iP-TEC®」
- ・研究室の実験機器、設備を取り扱う「LC4P®」
- ・実験、研究、製造現場のプラスチック製ボトル容器を取り扱う「IREMONO」
- ・研究者に寄り添ったアイデア商品を展開する「Platine®」

会社名	株式会社サンプラテック
所在地	大阪府大阪市北区同心2丁目1番3号
代表者	代表取締役 加藤 学司
事業内容	理化学用プラスチック製品、研究・製造用装置、再生医療関連製品の開発・販売
創業	1960年（昭和35年）7月1日
コーポレートサイト	https://www.sanplatec.co.jp/

本件に関するお問い合わせ先

株式会社サンブラテック

担当部署：企画開発本部 企画部 広報戦略課 担当者：大塚、鶴木

電話番号：06-6353-5326

メールアドレス：ootsuka@sanplatec.co.jp